

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会科】

#### 1. 対象 4年生

児童はこれまでに、第3学年「地いきの安全を守る」の学習で、「地域の安全を守る働き」について学習してきた。「地域の安全を守る働き」とは、自分やまちの安全を守るために自分たちにできること（自助）、地域での取り組みや備え（共助）、消防署や警察署の働きや関係機関との連携（公助）、のことである。本単元においても、自助・共助・公助について取り扱うため、児童にとっては同じ流れで学習できると考える。

夏休み後（南海トラフ地震臨時情報発表後）にとったアンケートでは、児童にとって地震が意外と身近ではないことがわかった。「南海トラフ地震は知っていますか？」の問いには、約4割が知らないと答えた。「地震への備えをしていますか？」の問いについても、約3割が「していない・わからない」と答えた。前述の質問に「している」と答えた児童に、「どんな備えをしていますか？」と聞いたところ、多くが「水や非常食の備蓄」との回答にとどまり、そのほかの備えについては意識が薄いことがうかがえた。また、「地震や災害から私たちを守ってくれる人はいると思いますか？また、それはだれですか？」という問いについては、8割が「わからない」もしくは「自分や家族」と答え、ここからも地域や市などの共助や公助についてほぼ意識が向いていないことがわかる。

これらのことから、本学級の児童は地震という災害についてあまり自分事として捉えておらず、捉えている児童についてもその範囲が狭いことが考えられる。本単元では、課題を自分事として捉えられるような第一次、災害に備えるため取り組みについて認識を広げる第二次、そしてそれらを関連付け、総合して表現する第三次で構成した。これらの三次の構成を通して、児童が社会的な見方・考え方を働かせながら主体的・対話的で深い学びができるようにしたい。

#### 2. 単元名 「地震にそなえるまちづくり」（全13時間）

#### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	自然災害から人々を守る活動について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

#### 4. 本時の目標

地震が起きたときの被害を減らすための備えについて、自助・共助・公助の視点で考え、話し合う活動を通して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを関連付けて表現することができる。

#### 5. 授業展開【本時】・単元】

##### 解決したい課題や問い

学習課題・・・地震の被害を減らすためには、どんな備えが必要か考えよう。  
学習問題・・・〇〇市は、自助・共助・公助、どれに力を入れるべき？

##### 考えるための材料

考えるための材料（導入）

【自助】 防災について家族内で話し合っているか→38%	【共助】 地域の防災訓練に参加しているか→24%	【公助】 〇〇市の防災アプリに登録しているか→11%
--------------------------------	-----------------------------	-------------------------------

想定される活動（導入）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、3つの備えの大切さをこれだけ学習してきたのに、実際に備えている割合が思ったより低い。市の取り組みも広まっていない。（課題に対する驚き）</li> </ul>		
考えるための材料（展開）		
<p><b>【自助】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災で助かった人と、助からなかった人の話</li> <li>→（助かった人） <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波てんでんこ</li> <li>・家族での話し合い（助からなかった人）</li> <li>・家で家族を待って亡くなってしまった。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>【共助】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神淡路大震災で助かった人は、誰に助けられた？</li> <li>→77%が共助によって助けられている。</li> <li>・東日本大震災の釜石市のハザードマップと実際に津波が来た範囲の図</li> <li>→ハザードマップを超えて津波が来たが、地域の人呼びかけで助かった人々</li> </ul>	<p><b>【公助】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震に強い家</li> <li>→</li> <li>・〇〇市では、耐震化率が90%以上。年々増加</li> <li>・耐震化や家具の固定に市からの補助金が出る。</li> <li>・耐震化率100%で、死者85%減の予測</li> <li>・これまでの既習</li> <li>→関係機関のつながり、情報の収集・伝達</li> </ul>
想定される活動（展開）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族を家で待って亡くなっている人がいるんだ。</li> <li>・「津波てんでんこ」のように、地震が起きたらまずは自分の身を守る事が優先。そのために、どう行動するかを家族と話し合っておくことが大事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公助で多くの人助けられると思っていたけど、共助がこんなに多いなんてびっくりした。</li> <li>・地域の人呼びかけで助かった人もいるんだ。日頃から、地域の人と顔を合わせておくことも大事だ。</li> <li>・防災訓練にも参加しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公助の力を借りて、地震に強い家になっている割合が増えていく。どんなに備えていても、家がつぶれたら終わりだから、まずは耐震化が大事だと思う。</li> <li>・たくさんの機関が関わり合っ助けてくれるのが公助。最後の砦が大事だ。</li> </ul>

### 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

導入8分→個学10分→グループ・全体22分→振り返り5分

※上記の想定される活動（展開）にて、自助・共助・公助それぞれの立場から、その必要性を子供達が語ると考える。その3つの立場を関係づけたり、統合したりする展開の後半部分について、予想される子供の表れを記述する。

- ・家の耐震化の補助をやってくれているのは市で公助だけど、やるって決めるのは自分や家族で自助だ。どっちも大事じゃない？
- ・公助は、助けが来るまでの時間がかかってしまう。その欠点を補うのが共助だと思う。だから、阪神淡路大震災でも、近所の人に助けられた人が多かったんじゃない？
- ・でも、例えば家がこわれて生き埋めになっちゃった人は、人の力だけでは助けられないよ。自衛隊とか、消防の人とか、最終的に助けてくれる公助の存在も大切だ。
- ・やっぱり自分は自助が大事だと思う。まずは自分の命を何より優先して、自分で判断して命を守ることが大事。

→どれも大事で決められない！しかも、それぞれがつながっている！

→自分・地域・市がともに取り組んでいくことが必要だ！

### 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

地震の被害を減らすためには、自助・共助・公助のどれも大切だと思った。自分・地域・市がともに取り組みを進め、それぞれが関わりながら役割を果たしていくことで、人々の命を守ることにつながるんだ。